

# 薬草栽培だより

No. 104 令和5年2月21日

富山県薬事総合研究開発センター  
薬用植物指導センター  
〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732  
電話 076-472-0801  
FAX 076-472-0353  
薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

## 【気象経過について】

12月は平年に比べ気温(平年差 $-0.6^{\circ}\text{C}$ )は低く、総降水量は357mm(平年比127%)と多くなりました。また、1月は平年に比べ気温は高く、総降水量は183mm(平年比71%)と少なくなりました。

向こう1か月の季節予報では、気温が高い確率が50%と高いと見込まれることから、雪解け後の栽培管理をお願いします。

## 1 薬草の管理作業

### 【共通の管理】

春作業として、まずほ場内に降雨や融雪後の水が停滞しないよう、排水溝の手直しを行うとともに、深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。

また、春の強風によるマルチの飛散を防止し、新芽が折損しないようマルチを土で抑えるなど手直しを行う。

### (1) シャクヤク

#### 1) 雑草が発芽する前の除草剤散布 (3月)

融雪後、雑草の種子の発芽を抑えるトレファノサイド乳剤(薬量:300ml/10a、希釈水量100L/10a)で植穴やほ場全面に散布する。

植穴や通路にすでに雑草が生えている場合は散布前に除草してから行う。

(※散布器は必ず洗浄してから使用する。)

#### 2) 殺菌剤の定期散布 (4~6月:月1回の防除)

安定した収量を確保するためには、茎葉の健全な生育が必要です。そのため、病害の発生時期の予防を徹底する。

新芽の展葉時(4月上旬)、開花時(5月上中旬)、生育期(6月)にダコニール1000(1,000倍)を散布する。

#### 3) 摘蕾摘花

蕾が上がったところで、生垣バリカンや草刈り鎌等で通路に摘蕾する。開花したのも同様に花首から摘花した後、回収しほ場外で処分する。

## 4) 追肥

植付け2年目以降は、3月下旬と6月に化成肥料を追肥する。株間のマルチを少し破り根の先端部分に軽く一握りずつ与える。

【10a当たりの施肥例:燐加安15号】

3月:40kg(NPK:6kg) 6月:80kg(NPK:12kg)

## (2) トウキ

### 1) ほ場選びとうね作り

やや冷涼で、日当たりと排水が良く肥沃なほ場を選定する。土壌酸度はpH5.5~6.5に調整し、極端な酸性土は石灰を入れて酸度を調整する。土質は、埴壤土~埴土が適し粘土質の強い土壌では根の発育が劣る。

うね作りは土が乾いた状態で施肥、耕起し、必ずその当日にうね立てまで行う。

### トウキの施肥(kg/10a)

肥料	基肥	追肥(6月)
発酵鶏糞	300 kg	
苦土石灰	100 kg	
過磷酸石灰	60 kg	20 kg
化成肥料(燐加安15号)	40 kg	30 kg
油粕	—	50 kg

水田転換畑では、排水のための明渠を設けて、うね高20cmにして水はけを良くし、排水良好な畑地ではうね高10cmの平うねにする。すそ幅は、1条植えて80cm、2条植えて100cm程度とする。

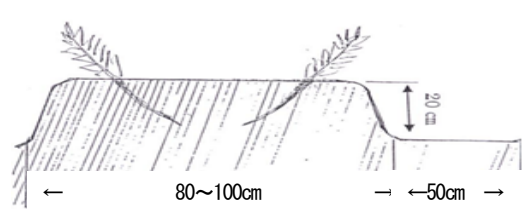


図 トウキの植付け(2条ちどり植え)

雑草対策として、白マルチ(裏面が黒)被覆で省力化できるが、直径10cm程度の植穴をあけるため年3回程度の植穴除草が必要である。



図 定植約60日後(6月上旬頃)

## 2) 雑草が発芽する前の除草剤散布

トウキ定植後、雑草の種子の発芽を抑える  
ゴーゴーサン乳剤(薬量:300ml/10a、希釈水量  
100L/10a)で植穴やほ場全面に散布する。

すでに植穴や通路に雑草が生えている場合は  
散布前に除草してから行う。

(※散布器は必ず洗浄してから使用する。)

## 3) トウキ苗、種子の準備

### ①トウキ苗の準備・定植

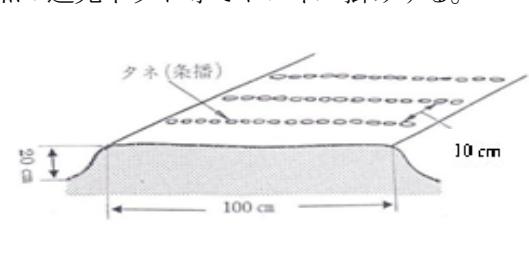
トウキの苗は 10 a 当たり植付本数(2条ちど  
り植え)4,000~5,000本を準備し4月下旬までに  
定植する。 苗は乾燥すると活着(苗立ち)が悪く  
なるので、予め希望する定植日を決めて苗を発注  
する。

### ②トウキ苗の自家生産

翌春に定植する苗を自家生産する場合は、種子  
を購入し、3月下旬~4月上旬に種子消毒<sup>\*</sup>して  
は種床(うね幅100cm、うね高20cm)に条間10  
cmですじ播きする。1ℓの種子をは種する場合は  
約0.5aのは種床が必要です。

(※種子消毒:ベンレート水和剤で種子粉衣する)

その後、覆土して乾燥防止のため粗殻を敷き、  
黒の遮光ネット等でトンネル掛けする。



■予約期日: 3月10日(金)まで

■苗の価格: 7円/本(4,000~5,000本/10a)

※苗の引き渡しは4月上旬頃からを予定していま  
すが、融雪の状況により遅れることもあります  
のでご了承ください。

■種子価格: 450円/0.1ℓ

※種子0.1ℓで約1,000本の苗

## 2 トウキの集荷について

今年は、3月下旬から4月中旬に集荷する予定で  
す。当センターから種苗を導入された方は、当セン  
ターでまとめて出荷できますので、ご連絡下さい。

11月に収穫したトウキは「湯通し」の作業を行い  
生薬に仕上げます。

「湯通し」ができない場合は、この作業を行う前  
の状態(一次乾燥根)でも出荷できます。

### 【一次乾燥根で出荷する場合の作業手順】

- (1) トウキの茎葉を黄色部がみえるまで稲刈り鎌  
や剪定鋏で切り込む。この時、根の色が黒ずみ  
褐色の腐った箇所は黄色部がみえる位置まで  
切り捨てる。その後、風通しのよい室内に並べ  
て乾燥する。
- (2) 調製後の根は腐りやすいため、出荷の前日に  
通気性のある袋に入れ、袋毎に秤量して、氏  
名・重量を表記し出荷する。

## 3 令和5年度の薬用作物の種苗価格

近年、希望者が少ない品目は、種苗の準備に年  
数を要するものがあります。希望者は、当センター  
に直接申し込み下さい。

作物名	種苗形態	単位	価格(円)	10a 当たり 所要量
ジャクヤク	薬用種	株	40	2,000株
	兼用種	株	350	1,500株
	観賞用種	株	650	1,500株
トウキ	種子	0.1ℓ	450	0.5ℓ
	苗	本	7	5,000本
ミシマサイコ	種子	0.1ℓ	500	2ℓ
ホソバオケラ	球根	kg	400	180kg
アマチャ	ポット苗	個	150	100個

## 4 薬用植物の状況

### (1) ジャクヤク

- ・薬用のジャクヤクの栽培は、平成22年頃から  
急増し、4年経過した平成26年秋から収穫が始  
まっています。今秋も収穫され、同時に苗株の  
増産も見込まれます。

### (2) トウキ

- ・令和4年度富山県薬用作物生産振興方針の中  
で、生産拡大推進品目として位置づけられてお  
り、今後の導入検討をお願いします。

新規栽培者あるいは栽培面積の拡大を希望され  
る方は、当センターまでご相談をお願いします。